

い旨の申し出がありましたので、ご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位10番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 一般質問2日目、最後となりました。皆様お疲れと思いますが、明確なご答弁よろしく願いいたします。

きのう、安部議員のほうからオリンピックの話が出ましたけども、4年に1度の冬の祭典、平昌オリンピックも終わりました。どの競技もとてもすばらしく、選手の皆さんの熱い思いが画面を通して伝わってきました。

皆さんもご存じとは思いますが、鈴木沙織選手は長井市にとってとても誇りに思います。豊田小学校や長井南中学校の在校生が先輩を応援するために応援メッセージカードや国旗に檄文を寄せ書きする様子がテレビや新聞紙面で報道されました。この報道により、長井市民はもちろんのこと、山形県民にも長井市出身のオリンピック選手として認知され、子供たちにも大きな感動を与えられたことと思います。残念ながら入賞には至りませんでした。自分の思い、夢をかなえる精神力と支えてくれる家族、応援してくれる皆さんに勇気を与えてくれました。スキーが好きということは、雪国生まれであり、小さいころからスキーに親しむ環境が身近にあったことも大きな要因となつたのではないのでしょうか。

それでは、本題に入らせていただきます。

道照寺平スキー場は、平成13年から長井ダム

の建設によって搬出された掘削土を搬入し、斜面を整備しリニューアルしたスキー場です。当時は白山森スキー場もあり、両方とも市営スキー場としてそれぞれに運営してまいりました。平成21年度の長井市の方針によりましてスキー場が一本化され、平成23年2月20日をもって白山森スキー場が閉鎖され、ナイター設備もなくなつてしまいました。

スキー人口が減少している中で、スキー場運営は難しいかもしれませんが、スキー場が1つになったことで集中的に整備し、市民が使いやすいようにして冬季の運動不足を解消する場を提供するのも行政の使命ではないかと考えられます。市民ひとり1スポーツの市の方針にも寄与できると思いますが、いかがでしょうか。

また、4年後ですが、冬季オリンピックが中国で開催されることもあり、現在のインバウンドにより、台湾ばかりではなく中国からの観光客がふえることも予想され、新たな観光につながるのではないかと思います。質問をさせていただきます。

第1項目、道照寺平スキー場整備をすることでいろいろな活用ができる可能性を問いたいと思います。

武道館の整備から始まり、圧雪車の購入、陸上競技場、野球場、サッカーができる多目的広場、そして今年度はテニスコートなど着々と整備されてきておりますが、スキー場の整備はまだ完了してないと聞いております。

平成25年の長井市体育施設整備検討委員会の報告書によれば、当時のスキー場の現状は3号リフトの位置を移動し、中上級者が楽しめる斜面を造成したいが、交付金事業のかかわりで早期移設はできない状況であるとの報告でした。その後、平成26年度から平成35年度の10年間の体育施設の中長期計画が策定されました。それによりますと、平成28年度にアンバーリフトの移設工事、夜間照明設備整備工事の計画となつ

ております。この点について、今現在どのような実績となっているのか、スポーツ課長にお伺いいたします。

昨年、市民の方から、孫とそり乗りをしたいのだが、乗り場が危険だし、滑りづらいとの声がありました。それに対しまして、早速、そり乗り場を駐車場から近く、乗りやすく、スキーヤーとの接触の危険もない斜面を整備されたことはすばらしいことだと思います。

昨年の12月に長井市体育協会、長井スキー連盟、道照寺平スキー場整備促進協議会、長井市道照寺平スキー場運営委員会の皆さんから、総合的な滑走斜面整備要望書が出されております。その中に、スキーを愛する市民の大半は中級程度の方が多く、技術習得には中斜面がなくてはならない重要な要素であり、小学4年、5年のスキー授業にも特に効果的な斜面と考えられます。道照寺平スキー場は、この中斜面の整備をすることにより、斜面的には初級者から上級者まで楽しめる総合的な斜面のあるスキー場となり、近隣のスキー場より利用しやすくなるものと確信しておりますとあります。

要望書にあるように、3号リフトを移設し、コースを広げることによって中級者のコースが整備され、初級者コースの混雑も緩和されるのではないのでしょうか。市長はどのようにお考えでしょうか。

次に、道照寺平スキー場の現状は、土日の家族連れは座れるリフトのある近隣のスキー場やAsahi自然観、蔵王スキー場などに遠征しての方が多とお聞きしております。また、ナイター設備がないために長井のスキースポ少からほかのスキースポ少に移動したりして、スキースポ少の団員が減り続けており、存続が危ぶまれているといったお話もお聞きしております。

それに加えて、土日仕事を休めないお父さん、お母さんにとってのナイターでのスキーは、お子さんとのコミュニケーションの時間でもある

と私は思います。近隣の飯豊町、白鷹町のスキー場にはナイター設備があり、長井市からも多くの方が来場して楽しんでいるようです。

道照寺平スキー場もナイター設備、できるならば乗りやすいリフトに交換できればいいと思いますが、資金の問題もあると思いますので、今後、計画を立てて、先日の文教常任委員会協議会での話があった電源立地地域対策交付金などの活用はできないのでしょうか。市長はどのようにお考えになりますか。

また、道照寺平スキー場は北斜面であることから良質で豊富な雪が遅くまで残り、3月下旬近くまで積雪があります。スキー場として3月上旬まで使用した後は、斜面を利用してスノーモービル体験乗車ツアーやバナナボート滑走体験ツアー、スノートレッキングなどのイベントの企画などできるのではないのでしょうか。冬だけのスキー場ではなく、春、夏、秋の活用も考えてはどうでしょうか。

また、スキー場からの熊野山の登山口施設としてヒュッテを利用し、バーベキューパーティーや芋煮会などの会場として利用できるのではないのでしょうか。

それに、長井ダムに近いことから、三淵通り抜け参拝ツアーの皆さんにも提供できると思います。隣町と一体となった散居集落農村風景、市内の観光施設と有機的に結べる観光素材となる地域資源はまだまだあると思いますが、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

道照寺平スキー場の上には熊野山があります。午前的一般質問の中で宇津木議員が山のことをお話しなされましたが、私は熊野山の話をしていただきたいと思います。

熊野山は昨年、やまがた百名山に選定されました。四季折々の散居村風景や置賜盆地が眺めることができ、初級者向けの手軽に登れる山です。3月から5月までに登山イベントが3つ企画されています。3月17日は葉っぱ塾主催の

「熊野山から中村観音 スノーシュー・ハイキング」、同じ日に長井ダム水源地域ビジョンと岳人長井が主催する熊野山スノートレッキング、5月4日にはクラブツーリズム仙台主催のやまがた百名山長井熊野山が予定されています。山形県山岳情報ポータルサイト、やまがた山のホームページは充実しており、相当多くのアクセスがあります。このポータルサイトには県内の山のイベント情報が掲載されています。熊野山の登山イベントも掲載してもらえないでしょうか。そうすることによって、道照寺平も生きてくると思います。長井市内に訪れる観光客の増加にもつながると思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

続きまして、スキーに関してですが、小学校のスキー授業の時間削減の理由をお聞きしたいと思います。

小さいころから雪に親しみ、スキーというスポーツができる雪国ならではの授業と思うんですが、今シーズンから小学生のスキー授業を減らした理由を教育長にお伺いいたします。

冒頭でも話しましたが、鈴木沙織さんがオリンピック選手として出場できたことは、小さいころから雪国である特性を生かした教育が根幹にあるのではないのでしょうか。このシーズンしかできない体験を生かしていくことも教育として大切なことではないのでしょうか。

例えば、大きくなって長井市を離れたとしても、きっと冬になるとスキーを思い出し、スキーができることで自信につながることもあるかもしれません。児童も今いろいろな勉強もあり、忙しいとは思いますが、運動不足になるこの季節のスポーツとして大切だと私は思います。教育長はどのように思われますでしょうか。

また、どうしても冬期間は体力が低下していくのではないかと思われますが、どのような対策をしているのでしょうか。あわせて教育長にお聞きいたしたいと思います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

私のほうからは1点ということで、道照寺平スキー場の整備についてのご提言でございます。タイミング的にはいい時期にご質問、ご提言をいただいたと思っております。

今までの経過につきましては、鈴木議員からもお話ございましたように、もともとは平成12年だと思いますが、長井市道照寺平スキー場基本構想というのがあって、1期、2期ということでの長期計画だったと思っております。その後、整備計画というのを策定されております。長井ダムで発生した残土をあくまでも我々がそれを活用させていただいたということでありまして、さらには、長井が周りのダム、例えば、白川ダムとか、あるいは月山、寒河江ダムとか、あのダムと違まして、民家が1軒も沈まないということで、いわゆる地域に対するさまざまな整備はゼロという中で当時のスキー場の建設の計画だったと思っております。

もともとは道照寺平スキー場、あそこの熊野山の山麓地域っていうのは非常にポテンシャルのあるところで、場所としては長井市のスキー連盟初めスキー関係の団体の皆様が選定をされて、以前から道照寺平スキー場があったと聞いてますが、その時期に大きな構想を立てられたということでございます。

その後、長井市のほうが平成13年から17年まで財政再建5カ年計画ということ、その後、平成18年から22年まで最後の仕上げということで、集中改革プランというのがございまして、前の市長のときに決めておられた一本化というところを私が担うことになりました当時、西根の皆様とか地元川原沢へ行きますと、冷たい視線の中でつらい思いしたという記憶がございます。

何度も状況をお話しして、最後は白山森スキー場の皆様も川原沢地区を初め西根の皆様もご理解をいただいて、じゃあ、一本化でいいということで決まったのが平成21年でございます、ただ、その後、白山森のスキー場を閉めてから、ロープ塔やら、あるいは照明、ナイター設備なども向こうに設置すべくしたところですが、当時はスキー関係は長井市は起債はできないと、借り入れしてはだめだと、認められないという財政当局の話でした。私も就任したばかりでその辺のところは当然そうだったと思うんですが、そうしますと財源が全くない中で道照寺平スキー場の整備については、大変平野地区の皆様とか、あるいはスキー関係者の皆様の熱意で今のような形になったというふうに思っております、それは私ども、市としても応えなきゃいけないと、そのように思っております。

特にグレンデを広げるときは、地元のいわゆる共有地、組山を無償でお借りしながら今のような形にさせていただきましたので、それらもいわずれ応えなきゃいけないと。ただし、スキー場の整備に関する資金源がないと。で、先ほど電源立地交付金を使ったらどうかということなんです、電源立地交付金はやっぱり金額的には四、五百万円なんです。しかも今は、いわゆる防犯灯のLED化に使っております、もう1年かかると、30年度ですか、それでやっと全て終わるんですが、今度は防犯灯をふやさなきゃいけないと思っております、実は。ですから、電源立地の交付金はそちらに使うというふうに考えてましたんで、いよいよ財源がないんですね。

ということで、大変苦勞して、なかなかスキー連盟の皆様初めいろんな方々から要望などもございまして、これを実現したいというふうに思っておりましたが、まことに厳しい状況だというのがまず概況であります。そんな中で、今回の鈴木沙織選手の平昌オリンピックの出場、

長井市初めてのオリンピック代表がスキー選手だったというのは、大変救いだったと、チャンスだと思っております。そういった意味でいい時期にいただいたということでございます。

できるだけ簡潔に話しますが、平成29年の12月1日付で長井市体育協会、長井スキー連盟、道照寺平スキー場整備促進協議会、道照寺平スキー場運営委員会の4者から総合的な滑走斜面整備に関する要望書をいただいております、その要望書におきましても、鈴木富美子議員からご質問いただいた内容も含まれております。

ご提言いただきました3号リフトの移設とそれに伴うコースの拡幅につきましては、スキー技術に応じ、初級、中級、上級者それぞれが楽しむことができる変化に富んだ総合的な斜面となり、また3号リフトを上っていく人と滑りおりてくる人の衝突事故等を未然に防止できるということから、議員のほうからナイター設備等に交付金の活用できないかで触れられております、このナイター照明の設置と一括して、助成金等の情報を入手しながら、できるだけ早期に着手してまいりたいと思います。

この4者の皆様からは、まずはリフトの移設とそれに伴うコースの拡幅ということなんです、私は、確かに長期的な計画で1つずつ、一歩ずつやるってのもいいんですが、やっぱりやるんだったら一気にしないとこれだめですよ、私は常々思ってた。ただ、財源がなかったんで、ちょっと厳しいなと思っていたんですが、ちょっと状況が変わってきました。

議員からは、ナイター設備等に交付金等の活用できないかというご質問でございますが、冬期間は積雪がありますのでどうしても運動の機会が限定されてしまうと、おっしゃるとおりでございます。スキーを通じて家族が触れ合うことも非常に大切でありますし、先ほどから繰り返になりますが、平昌オリンピック日本代表の鈴木沙織さんに続く選手もぜひ育てほしい

と思いますし、過去もいろんな優秀な選手が多くいらっしゃいます。実は長井はスキー人口の割にはレベル高い、そういった市であると思っております。

財源の確保をどうするかでございますが、想定される交付金等については、今回、テニスコートの整備に当たり助成いただいたスポーツ振興くじtotoがあります。今までtotoは、実はスキーには使えなかったんですよ。ところが平成30年度からリフト、照明などにも助成できるよう制度の拡充が行われるという情報がございまして、事業費の上限は内容によりますけれども、最大で1億5,000万円、事業費の3分の2まで助成されるようでございます。

また、ご質問にあったとおり、電源立地地域対策交付金は約440万円、これ年間でございますが、この活用も可能ではございますが、こちらは別なところに使わなきゃいけないなと思っております。

先ほどお答えいたしましたけども、ナイター照明の設置、3号リフトの移設、できればリフトの改善もしなきゃいけないと。本来であれば乗用じゃないと、多分外国の方なんか使えないですよ、無理です、ある程度スキーやってる方じゃないと。ですから、どこまでできるかですけども、スポーツくじの助成金を活用し、それにはずっと要望活動をしないと、手を挙げたからすぐについていうことにはならないと思っておりますが、できるだけ早期に整備をしてまいりたいというふうに思います。

やっぱりスキーのスポ少の保護者などからもナイター設備を何とか早くしてほしいという要望があります。ただ、そういった方々には白山森から外したナイター設備があるんですが、道照寺平スキー場まで電気っていいですか、電力を引っ張ってこなきゃいけないと。それだけで1,500万円ぐらいの長井市の負担が必要だということで、3,000万円、4,000万円かかるよと、

なもんで待ってくださいというふうに言ってますが、ぜひそういったことをして、やっぱり一般の市民も、それからスポ少でない小・中・高の生徒、児童にも使っていただけるようにしないと、やっぱり使う人が少ないともうこれも大変かなというふうに思ってるところです。

最後に、スキー場を整備して、春、夏、秋の活用をというご提言でございますが、本年度の冬以外の利用状況といたしましては、スキー場のコミュニティセンターには炊事施設等を完備しておりますし、あそこの地元の運営委員会の皆様の管理が非常にいいので、夏場を中心に仲間内でのバーベキューとかキャンプ等で年間500人ほど、冬以外ですね、ご利用いただいているということでございます。

3月上旬から下旬の残雪を利用したいろいろなイベントができるのではないかとご提言でございますけども、克雪、利雪という面から、資源として有効利用していくことも大事なことはないかと思っております。冬以外の利活用も含め、整備をお願いしている運営委員会の皆様からもアイデアを出していただきながら検討していきたいと思っております。

続いて、熊野山についてでございますけれども、議員もご存じのとおり、お話ありましたように、標高670メートル、片道1時間30分で行ける初級レベルの山でございまして、市の商工観光課の女性職員が登った際、1時間弱で登頂できるという気軽に登れる山でございますので、頂上付近展望台からは、長井ダムや、議員おっしゃるように祝瓶山を望むことができますし、散居集落も見ることができるということで、ご質問の山形県の山岳情報ポータルサイト、やまがた山への熊野山の登山イベント情報の掲載でございますけれども、情報掲載できますので、運営する県の環境エネルギー部みどり自然課と連携して、市関係団体が実施するイベントや長井の山岳情報の発信をしてもらいたいと思っております。

おりますので、よろしくお願ひいたします。

今すぐできるかどうかというところはちょっと難しいんですが、ただ、この新たなtotoを活用して、整備できるっていう方向が見えてまいりましたので、そのときにはぜひ議会の皆様からもご理解いただいて、やるんなら魅力あるものにしないと、中途半端なものは私にだめだと思ってます。コースの拡張とかリフトの移設はこれ必須だと思ってますが、あわせてさまざまな整備もできる限りの範囲にはなりますけども努力してまいりたいと思います。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 私のほうには、小学校のスキーの授業についてということで3点ほどご質問をいただきました。

まず、スキーの授業につきましては、雪に親しみながら自分の技術を高めたり、あるいは斜面への挑戦心を高めたり、さまざまな効果があるというふうに思います。そしてまさに雪の中で閉じこもってないで外に出て雪を克服していくっていいですか、雪を利用しながら楽しみを持っていくという意味で、大変重要な意味を持つというふうに私も思います。

スキーの授業は、実は減らしたくはありません。ありません。ありませんが、なぜ削減したんですかということのまず市内の状況について、まずお話しさせていただきたいというふうに思います。

スキーの授業っていいですよと、これいわゆるスキー場に行つての授業と、グラウンドとか築山を利用してのあれは全然含まないわけですけども、ゲレンデに行つて、スキー場に出かけていっての回数については、議員からご指摘いただいたとおり、多くの学校が3回から2回に減つてございます。西根小学校が昨年度、平成28年度から3回から2回、それから平野小学校が今年度から3回から2回へということに減つて

おります。それから現在、豊田小学校の6年生だけが蔵王を含めて3回というふうになってますけれども、ほかの小学校全て、5年ほど前から2回というスキーの授業になっております。

このスキーの授業回数、いわゆるスキー場に出かけていっての回数を3回から2回に1回減らしたということの背景には、議員ご案内のとおり、いわゆる教育課程をどういうふうに学校で組んでいくかっていう大きな問題があります。ちなみにですが、スキーの授業、当然体育というふうにカウントされるわけですが、体育としての時間が1年生が年間102単位時間、2年生から4年生までが105単位時間、そして、5、6年生が90単位時間と減るんですね。

5、6年生を例にお話ししますと、1回のスキー場でスキー授業で先ほど申し上げましたが、3時間の道照寺平あたりはカウントしてございます、市内は。それから、蔵王へ行くときさらにプラスしてカウントしますので、10時間以上カウントするという事になるかと思いません。この時間でございまして、これまではある程度時間をかけて指導することができましたが、最近といいますか、また新しい学習指導要領が2020年度から実施されることとなります。それから、来年度からは移行措置というのが始まるわけですが、さまざま学校に求められる教育内容が一つはふえてきたということが一番の大きい課題でございます。

その中で、きのうも答弁させていただきましたけれども、学校では何を残し、何を切っていくのかっていうのに校長先生初め、みんなでの教育課程編成に頭を悩ましております。切つて、そういう無駄な活動とか行事は切つていいんですけど、無駄なものは今一つもないんです。一つも、まさに切れるものがないっていうんで頭抱えてるんですが、そこで3回だけでも、1回だけ減らして2回、なくすのは絶対だめだから、なくすのはだめだから、何とか2回で子供

たちに雪に対する楽しさみたいなのを存分に味わわせようということで、言ってみればぎりぎりの折り合いをつけた回数が2回というふうにご理解をいただきたいというふうに思います。

あともう一つは、保護者の方からスキーの班ごとの指導者になっていただいたりしてるんですが、その指導者の確保がちょっと難しくなってきたと。1回だけなら何とか行けるけども、3回はちょっと行けませんという保護者の方も、もちろんこれは今に始まったことではありませんけども、指導者の確保に年々難しくなってるということも理由の一つでございますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

それから、スキーの授業は雪国の特性を生かした教育で必要なのではないかと、まさに、本当にそのとおりです。私もそう思います。まさに雪が降る中閉じこもってないで、外に出て雪を克服していく、そういう積極的なやっぱりたくましい子供たちに育ててほしい。そのためには大事だというふうに思います。雪遊びをしたり、スキーをしたりする、そういう喜び、それから雪景色を堪能できる幸せ感、そういう教育活動だなというふうに思っておりますが、先ほど申し上げましたような理由といたしますか、それから授業時数にはひとつこう限りがございますので、各学校にはバランスのとれた教育課程ということで、スキーのだいご味は損なうことなく、充実した教育課程組んでくださいねということでお願いしているといったところでございます。3回から2回は本当に各学校、苦しみながら、説明をしながらぎりぎりの対応かなというふうに思っております。

それから、冬期間の体力増進についてということで、ご質問でございます。そういうふうにスキー教室なんか減らしてしまえば運動不足がもっと進むんじゃないかということだろうというふうに思いますが、各、これ小学校中心になりますけども、工夫して体を動かすという機会

はどの学校も工夫して現在とっていただいております。特に縄跳びにつきましては、冬場のスポーツとして奨励しまして、全校運動の時間をとったりしながら、それから体育の前半の部分で取りませたりしながら行っているところでございます。

1月に行われました市の縄跳び大会、これでは、どの学校も集団跳びに挑戦するなど、大会参加の人数なども多くなっているということでございまして、児童数が少なくなっている中、大変盛り上がっているということでございます。

それから、先ほどスキーの授業っていうとアルペンスキーと、鈴木沙織自身もある意味アルペンスキーからフリースタイルに転向されたわけですけども、どの学校でもクロスカン트리スキーに、ある程度スキーの本数とか靴がそろっておりますので、これもぜひ経験させたいということで、体育の授業などにグレンデには行かないんですけども、グラウンドなどで取り組んでいるところでございます。そのことによって、持久力とか体力向上に努めているということでございます。

そのほかにも各学校、学校によって違うんですが、腕立てとか腹筋、それから肋木を使った運動など、複数プログラムをつくりまして、いわゆるサーキットトレーニングのようにぐるぐる周りながら、冬場の運動不足を解消といたしますか、体力づくりに努めているということも取り組んでいる学校もたくさんございます。このように各学校では工夫して、体力が落ちないように取り組んでいるところでございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** 最初のご質問であります平成26年度から平成35年度の10年間の体育施設の中長期計画に関する道照寺平スキー場の整備の進捗はというふうなことでございます

が、ご質問の中長期計画、これにつきましては平成25年2月15日に長井市教育委員会から長井市市体育施設整備計画検討委員会にご検討を依頼しております。報告につきましては、平成25年の9月17日付で、検討結果の報告書という形でいただいております。

委員会の構成につきましては、長井市の体育協会から委員長として吉田会長、委員として、競技団体の各代表6名、あと、長井市の中体連の会長、生涯学習プラザの運営審議会、それに長井市のスポーツ推進員から2名、一般公募の方から2名、あと行政から2名、合計で15名で組織されております。

会議につきましては、平成25年の2月から検討を開始いたしまして、8月にかけて計5回開催されている状況でございます。

報告の内容につきましては、建設から相当の年数が経過しているスポーツ施設について、市民ひとり1スポーツを推進するために既存の施設の再整備、リニューアルが急務であるとして、市内10カ所18施設に関する平成35年度までの10年間の中長期計画がまとめられております。

スキー場に関する具体的な整備計画と現在の状況でございますけれども、圧雪車につきましては計画どおり平成27年に購入済みでございます。しかしながら、平成28年に計画されておりました3号リフトの移設、それに伴いますゲレンデ整備、あとナイター照明の設置につきましては、残念ながら未着手となっている状況でございます。以上です。よろしく申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ご答弁ありがとうございます。市長から、本当明るいお話が聞けてうれしかったです。今すぐとはいかなくてもそういうtotoがあるということで期待したいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

教育長のほうから、やはりスキー授業は難し

いとのお答えが出ましたけども、やはり雪国に生まれてるので、ぜひスキー場を整備していただくことで授業足りないところを家庭に、ナイターとかにスキー場に足を運んでもらうためにも、ぜひスキー場の整備を早急にさせていただきたいと思いますが、市長、もう一度、どの、何年ぐらいついていうか、先はちょっとわかりませんよね。ちょっと教えていただけますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

totoの採択は29年度採択していただいたわけですね。それで、やはりどうも山形県が多いんじゃないかというような批判が随分あるようで、今後手を挙げていろんな方面に働きかけて採択していただくまで、これ何年というのはちょっとわからないんですけども、ただ、1億5,000万円ぐらいを上限と、しかも3分の2ですから、仮に1億5,000万円だとしたら、5,000万円の私ども負担で、それは起債をいたしますけども、1億の支援をいただいてゲレンデの整備、リフトの移設、それからナイターの設備、リフトはどこまでできるかですが、今のいわゆるロープ塔みたいなものから少し、もう少し使いやすいものまでできる可能性があるのかなと。ただ、乗用ですともっと高いので、その辺のところも含めてどうかですが、ぜひこれは新年度に入りまして制度が確定しましたら、各方面に、お願ひしてまいりたいなということで第2、第3の鈴木沙織選手を長井市からということで弾みがつくのかなというふうに思います。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ、余り長くかかるようですと、せめて3号リフトだけでも移動してもらって整備していただければなとりあえず思うんですが、長くかからないような市長のお答えも期待したいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

3月4日で道照寺平スキー場は終わりましたが、まだ来場者の人数とかわかってないと思います。何か今年は多かったようなお話を聞いております。たまたま手ノ子スキー場に行ったときに、イベントがありまして、年1回の感謝デーというのを設けておりまして、皆さんに何かくじか何かを引いていたんですけど、たまたま夏のバーベキューパーティーにチケットが当たりまして、そういうの、夏も手ノ子スキー場もそういうイベント、お客様を呼ぶためにいろんなイベントをしてるんだなということがありました。あと、A s a h i 自然観はレディース感謝デーとかもありまして、やっぱり道照寺平も運営委員会の方が一生懸命やってらっしゃいますけども、そういういろんなイベントについても市でもちょっと少し援助したりしてスキー場に運んでもらうような施策もあると思いますが、市長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** やっぱりそういったところの支援はしなきゃいけないと思っておりますが、道照寺平のスキー場の最初構想をお聞きしたときに、私は当時、議員をさせていただいて1期目でございましたけども、たしかまなび館のところから道照寺平の上まで乗用リフトが、リフトじゃないな、ロープウエーみたいので行けるようにするような構想もあったみたいな気がするんですが、で、下までたしか来れるような、これはいいんですが、やっぱり私ども行政側として心がけにゃいけないのは、それをやるときに何でやるんだと、どういう事業をどう補助を受けてやるんだということをめど立たないうちにそういうことをやってしまうと、もう大変なことになるわけですね。皆さん、夢だけが広がって、だけど、現実的にできるかっていったときに、じゃあ、何でやるんだということになりますよね。

当時は、さっきも言いましたけども、スキー

の起債なんて一切認めないという、県とか国からの指導だったというふうに聞いてます。ですから、これからやるときに、例えば、今、鈴木議員がおっしゃったように、やっぱりほかのスキー場なんかも冬ばっかじゃなくて、いろいろ活用いただけるようなさまざまなイベントやったりしてるわけですね。今も、地元の平野地区でそういったことをしていただいているものから、夏場は500人も利用あるわけですが、そういったところにもいろいろな計画があって、我々に支援の要請がありましたら、ぜひ検討して応援していく必要があるのかなと。やっぱり行政のほうではなかなかそういったイベントなんかできませんので、地元とか地域の人たちの、あるいはそういう団体のイベントなどをやっていただいて活用いただくというのはぜひ支援しなきゃいけないというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長、ありがとうございます。ぜひ地元の方も本当に頑張ってもらってるところ、私も見ておりますので、ぜひ協力しながらしていきたいと思います。

あと、教育長にもすごい教育の場の厳しさをお聞きして、ああ、苦勞されとるんだなと思いましたが、沙織選手のような方が出るには、基礎が小さいときのスキーかなと思っております。スキー授業に求めてはいけないなと思いますが、やはりクロスカントリーもなさってるということで、ちょっと安心したところでした。

やはりここに生まれてる限りは雪からは逃げられませんが、ぜひとも子供たちに雪の楽しさを、だんだんと私たちの年代よりも、私たちの子供の時代と、スキー、雪がだんだん嫌いになってるような気がするので、ぜひ学校のほうでも楽しいんだよということを教えていただければと思います。

やはり復活のあれはないですね、スキー授業の。しつこいようですけど、もうちょっと、

2回に分けてしてるよりも1日乗ったほうが効率的にいいのかなと思ったり、あと用具なんかもすごい1回だけとか2回だけで困ってらっしゃるご父兄の方もいると思いますので、その辺の配慮はどのようになってますでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 本当に気持ちとしては、昔は3回どころか5回、6回行ってたような気がします。気持ちとしてはやっぱりそうなんですけれども、どうしても全体の教育課程を考えるともう折り合いをつけざるを得ないということで、各学校、2回に切りかえたタイミングっていうのはまちまちでございますけれども、本当に苦悩の末に何とか2回だけは確保しなきゃということで確保しているものというふうに理解をしております。

それから、用具とか当然お金かかるわけですので、これにつきましては、当然レンタルとかもありますし、それから同じ学校の中でPTAの方が中心となって要らなくなったスキー、靴とか、ビンディングとか調整しなきゃいけないけども、そういうのを下のほうに譲るような取り組みを行ってるところもございますので、そういうのを活用していただきながら、用具についてはできるだけお金がかからないような形で、各学校とも配慮してるといったところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。4年後に中国と近いところでオリンピックありますので、鈴木選手に続く選手を育てる意味でも、市長、早急に整備のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

お願ひして、私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 4時11分 散会

散 会